

Ⅱ部 OCR 関連装置に関する調査

1. 2020 年の市場規模

2020 年（2020 年 1 月から 12 月）の OCR 市場は、金額ベースで約 96 億円となっており、2019 年比で約 3%増という結果になった。「デバイスタイプ」は、台数（本数）ベースで約 5 千台（本）となり 2019 年比で約 28%減、金額ベースでは、約 63 億円で 21%増となった。2020 年度に台数（本数）が減少した主な要因としては、新型コロナの影響により対面による窓口業務で用いられるオーバーヘッドスキャナによる OCR 処理が減ったため台数が減ったと考えている。金額が増加した要因に関しては、給付金など郵送による集中処理で中速機・中型機の付加価値が付いた機種にシフトしたため金額ベースでは伸びたと当委員会では考えている。

「ソフトウェアタイプ」が金額ベースで約 33%減の約 12 億円となっており、新型コロナの影響で、対面が減り、名刺を受け取って OCR を掛けることやハンコレスによる紙の領収書や請求書を OCR する用途が減ったためと委員会では考えており、また、製品単価が低下しサブスクリプションや課金サービスなどの料金体系の変更が進んできていると推測する。RPA 連携など DX での OCR の可能性が広がっているものの、その処理に含まれる OCR ソフトウェアタイプの金額が捕捉できていないことが課題だと考えている。

「ソリューションサービス」は金額ベースで、9%減の約 21 億円となった。

2. 2023 年までの見通し

2023 年の OCR 市場は、金額ベースで約 77 億円（2019 年比 約 17%減）と見通した。タイプ別では、「デバイスタイプ」は台数ベースで約 1.5 万台、金額ベースで約 52 億円、「ソフトウェアタイプ」は金額ベースで約 11 億円と見通した。「デバイスタイプ」は、2021 年以降、大型機から小型機への分散化やリプレース市場による台数増加はあるものの、金額ベースでは減少していくと見通した。

「ソフトウェアタイプ」は 2018 年以降、製品単価が低下しサブスクリプションや課金サービスが本格展開されることが予想されることから減少の傾向と見通すが、一定の利用はあるため下げ止まると予測している。さらに、RPA と OCR の連携や、eKYC の本人確認など DX の伸びが期待されるため、その捕捉を検討していく。

「ソリューションサービス」は、安定的なサービス業務の利用により 2020 年以降は横ばいで推移するものと見通した。

以上